

ト云フ値ヲ得タガ之ガ6日後ニハ増大シテ0.63ニナツテキル。尙酸素呼吸ニ對スル一酸化炭素ノ影響ヲ見タガ何等ノ影響ヲ見ナイ。KCN ハ完全ニ呼吸ヲ阻止スル。Spektroskopisch ニハ還元 Cytochrom C ノ存在ヲ證明スルコトガ出來ナカツタガ試験材料ノ卵ノ層ノ薄カツタ關係カモ知レナイノテ全然ソノ存在ヲ否定スルコトハ出來ナイ。Anaerob ノ Glykolyse ハ認メラレナイ。
最後ニ Pleocercoides ニ就テ調べタガ酸素

呼吸ハ發育セル Wurm ニ比スト遙カニ弱ク anaerob ノ Glykolyse モ同様遙カニ弱イ。還元 Cytochrom C ノ存在ハ陰性デアアル。一酸化炭素ニヨル呼吸阻止ハ認メラレナイガ KCN ハ m/1000 濃度ニ於テスラ完全ニ呼吸ヲ阻止スル。
以上ノ成績ヲ總括スルト發育シタ Wurm 及ビ Pleocercoides ハ fakultativ anaerob テ卵ハ obligat aerob ノ生活様式ヲ營ンデキルト云フコトガ出來ル。

雜 報

家畜群靈祭執行

12月16日例年ノ通り家畜群靈祭ガ執行サレタ。

學術集談會開催

12月21日午後1時ヨリ所内講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタ。演題ハ次ノ通りデアアル。

1. 二三ノ殺菌劑ト細菌トノ量的關係
宮脇 直一君
2. 「ビタミン」B 缺乏症犬ノ血液解糖作用竝ニ該作用ト血糖量トノ關係ニ就テ
臼杵 仁君
3. 「ウムステチンムング」ト疾病治療(綜説)
宮川 米次君
4. 臺灣管見
城井 尙義君

新年式舉行

1月4日午前10時所長室ニ於テ例年ノ通り新年式ガ舉行サレタ。

學友會へ寄附

- 學友會へ下記ノ如ク寄附アリタリ。
- | | |
|-------------|----------|
| 金 98 圓 32 錢 | 宇 賀 武 俊君 |
| 金 250 圓 | 安 田 宗 一君 |
| 金 200 圓 | 柳 澤 德 義君 |
| 金 82 圓 49 錢 | 三 田 泰 三君 |
| 金 33 圓 | 三 田 泰 三君 |

昭和八年十二月中職員異動調

發令月日	異動事項	官職	氏名
11. 30	歸朝(佛國ヨリ)		
		技 手	大山 西一
11. 30	依願免本官	技 手	鈴木 市郎
12. 1	陞叙高等官三等		
		助教授	小島 三郎
12. 6	埼玉縣下へ出張ヲ命ス		
		技 師	阿部 俊男
12. 15	叙從五位	助教授	小島 三郎
„	依願免本官	技 手	田淵 俠介
„	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		田淵 俠介
12. 24	昭和8年12月24日付願研究生繼續ノ件許可ス		田畑 良造
12. 27	任東京帝國大學助教授		
		技 手	矢追 秀武
„	叙高等官六等		同
„	補傳染病研究所所員		同
12. 27	任東京帝國大學助教授		
		技 手	羽里彦左衛門
„	叙高等官七等		同
„	補傳染病研究所所員		同
12. 28	昭和8年12月25日付願研究生退學ノ件許可ス		武田 英一

雑 報

所長就任の挨拶と所員に対する希望

宮 川 米 次

1. 誠意と努力とを以て職責を盡したい

今回長與先生が御都合によりまして傳染病研究所長を御辭任になりまして、私が其の後任として、所長の重職を汚がす事になりました。私は素より不敏、菲才其の器に非ずと信じて居りますが、折角御推選を忝ふし敢へて其の職に就きましたる以上は「誠意と努力」をもちまして其の職責を盡して行きたいと覺悟致して居ります。之れと同時に又諸君からも心からなる御援助、御協調を忝ふしまして、本所の使命を完ふして行くだけではなくて、世の進運に伴ひ、學問上の研究検索は申すに及ばず、一般の施設に於きまして遅れざらんを勤めまするのみならず、希くば一步づ、其の先きに立つて行く様に努力致したいと祈つて居ります。

所員諸君も誠意と努力とを以て、各々其の職分を御盡し願ひたい、要領よく、體裁を繕ふて、ごまかす事は大の禁物であります。即ち吾々は、日常の作業を爲すのに人格的であらねばなりません。茲に於て人格養成が誠に大切なここになります。假令如何に高位につき、社會的に、物質的に恵まれたとしましても、其の人に人格が伴はなかつたとしたならば、實際何等敬ふべき價值はないのでありまして、之れこそ沐猴に冠するが如しと言ふものであります。學問をし自己の見識を高めると共に必ず伴はなくてはならないのは人格の養成であります。人格の下劣なものに、學問をさせるご却つて社會の毒になる。吾等の傳研に於ては其の種の人は一人も要らないのであります。

吾等の持つべき人格は申す迄もなく日本魂であらねばなりません。日常の百事は、此の魂の發露によつて行はれ日常の生活は武士道の眞髓に従つて送りたいのであります。言ひ換へますと、武士道の權化であります日本刀を常に腰に差して居る積りで居りたいのであります。昔の武士は刀の手前出來ないといふて、やましいことは致さなかつたその意氣が欲しいのであります。日本刀は切るが爲めにのみあるものではありません。日本刀あるが爲めに切らずに濟むのであります。名刀の前に参りますれば肅然襟を正す大人格が其の内に潜んで居り、言ふに言はれぬ威光に打たれるものでありまして丁度吾々が大人格者の前に立つた時と、同じ氣分になるものであります。百鍛鍊磨の結晶たる日本刀は約壹千二百年前刀祖大和の天國の創意になつたもので、後鳥羽上皇を中興の祖とし、春秋戰國を経て今日迄、全く外國人の教を受けずに發達した吾等の魂であるのであります。發すれば萬朶の花となりますが、平時は流るゝが如き香を侵すべからざる威嚴を保つて居るのが其の本領で、捨て、置けば、赤錆の鐵となりますが、不斷に鍛へ磨けばこそ吾等の魂の權化となるのであります。此の腰間

の秋水に魂を打ち込んだ吾等の先祖の築いた世界無比の武士道精神を持つて、吾々は日常の生活を送りたいのであります。

明治大帝の御製

身にはよし佩かずなりても劔太刀

こぎな忘れぞ大和心を

2. 傳染病研究所の使命. 然らば、吾が研究所の使命は何にかこ、翻つて考へて見たい。傳染病に關する一般の研究檢索は申すに及ばず今日に於ては實際醫學全般に互る研究檢索によつて其の蘊奥を極めることが吾等の使命の第一義であります。即ち醫學研究が吾等の生命であります。そして吾々の研究は眞に活きた學問でなければなりません。研究室裡に於て知り得た結果は、之れを直ちに實際社會に應用して疾病の豫防撲滅に應用せられなくてはなりません。此の爲めに本所よりは、從來も諸種の血清、「ワクチン」が一般社會に供給せられて居ります。之れは吾等が實際社會に觸れて居る一證左であります。そして此の製品に對しても吾等の得たる研究上の所見によつて改良に改良を加へ、常によりよいものを供給すると言ふことを勤めますことが又非常に大切な事柄であります。此の様に吾等の研究業績は、即社會の實相に觸れ得るものでありたいのであります。此の意味に於て私は私等の學問は活きたものでなければならぬと言ふのであります。之れと同時に本所の使命の一として本所は衛生行政に對して、實に唯一の官立研究機關であり又中央衛生會と相俟つて、内務省の諮詢機關であるのであります。此の様な機構の許に働いて居ります所員諸君は誠に社會衛生上の實相に可なりの程度迄、觸れて行くことが出来る譯であります。又他面には吾々は此の衛生行政を實際に行ふ技術者の養成をし又一方では病者の治療をも爲すのであります。然し本所の使命は帝國大學の醫學部とは相違して居ります。學問の蘊奥を極める點に於ては共通であります。學生を教導する言ふことは本所の使命中にはありません。之れに反して、社會の衛生機關と可なり密接に直接交渉して行く言ふ使命を有して居ります。

以上の様に吾々は常に社會と直接に交渉を持つて行かなくてはなりません。象牙の塔に立籠り、日清戰爭をも知らずに過ごす様な學者、世間と没交渉の先生は本所には適當せぬのであります。此の意味よりして本所の初代所長たりし北里先生の血清細菌に關する研究の如き、前所長長與先生の恙蟲病、癌に關する研究の如き本所に於ける最も好適の御研究と申さねばなりません。例を外國にさるならば佛蘭西の Pasteur の研究がそれであります。蠶の微粒子に關する研究、葡萄酒の腐敗の原因の探究延いては其の防止方法の完成に關する研究の如き誠に私等には好個の例と思ひます。誠に氏が佛蘭西におきまして大 Napoleon 以上の人氣を博しましたのも全く偶然ではないと思ひます。獨逸に於ける Virchow, Koch の研究の如きも亦實に常に社會と交渉を持つことを忘れなかつたのであります。時の鐵血宰相 Bismark ですら Virchow には一目をおいたと聞いて居りますが之れも誠に理由のあることと思ひます。即ち同氏の主張には一點の私心がない純學者的醫學的研究の結果得た實社會の改革に關する獻策

であつたからであります。私は Clemanseau や後藤新平伯の如き醫家出身の政治家を喝仰するのでは勿論ありませぬ。私等の研究は常に實社會に即した活きた學問であらねばならないと言ふのであります。

3. 所員諸君相互間は互讓、協調の精神を持して行きたい。吾々が排除しなくてはならないのは各個人、各研究室間の競争であります。又學問上の妥協と虚偽とであります。吾々 450 名の所員は正に一大家族でありまして、喜怒愛樂を文字通りに共にしたいのであります。不幸にして病めるものは之れを治してやる。惱めるものは其の苦しみを除いてやる。楽しい、喜ばしい、愉快な事は、之れを分つて、共に楽しみ、共に喜びたい。人の喜びを羨み、嫉み、徒らに競争し故意に人の成功を妨げんとするが如き態度は吾等大家族内には絶対の禁物であります。

吾等が常に有すべき互讓の精神は總ての事に現はれなくてはなりません。2, 3 ヶ月後には吾々は文字通りに一家の大建築の内に大體皆が住ふことになります。此の際、ある研究室は割合に人が少く、寛かな所もありましよう。ある研究室は押すな押すなの満員になる様な所もあらうかと思ひます。此の際は互に席を融通し合ふ様に致したい。之れと同様に器械器具も有無互に融通して、便利を計る様に致したいのであります。

今日迄は御互にバラックの住でありましたから、廊下に物を置きましても目立たなかつたのであります。今後はそれが出来なくなりました。萬一研究室がそれを敢へて爲したとすると外觀は素より、周圍の生活者、研究者に非常な不便を感じさせることになります。此様に一個の物を置くのにもすぐ他人に迷惑なきやを考慮の中において貰ひたいのであります。之れと同じ様な意味に於て事物の整頓、整理を上手にやつて頂きたい。今日迄は誠に薄穢い所に居つたものでありますから、多少亂雑になつて居りましても目立たなかつたが、今後は物を整頓するところが一個重要な事項となつて來ました。之れが充分に行かないと其所から色々な事柄が出て参ります。例へば出火の如きも、多少の原因はかういふ點にあることもありますから、注意に注意を願ひたい。又同じ様な原因から、汚水の排出管を閉鎖するところが珍らしくありませぬ。一旦それがあつたとするとあの頑丈な建築物でありますから、修復をするのも簡單ではありません。汚水でも溢れたとすると階下の人に非常なる迷惑を掛けることになります。此點特に女工手諸君は深い深い御注意を願ひたい。

十人には十色の考へがあります。それは面の變つた通りであります。其所を御互に譲り合ふ精神を持つて行きますれば、必ずや愉快なる合致が見出されるものであります。私は本所の事務を遂行するに當りまして、廣く所員諸君の衆意を聴く積りであります。必ずしも常に満場一致の意見のみを行ふといふ譯には参りません。然し正しい、宜敷い考へました事を斷行する積りで居ります。私は長與先生の女房役を致して参りましてから丁度今日で5ヶ年目になります。其間只今申し上げました考を以て事に當つて参りました。今日所長になりました。それは同様でありまして、何にも今日速かに色々な事を改良し、變更しなければならない必要のことは

ありませぬ。大體に於て今迄通りでありますから。其所は御安神を願ひたいと思ひます。

4. 吾等の傳研。吾々所員一同は傳研に對し常に吾等の傳研と言ふ信條を持つて頂きたい。之れは私しするこいふ意味ではありませぬ。心からなる愛の表徴として吾等の傳研こいふ觀念を持てこいふここであります。此の信念は總てに現はれます。傳研其物の毀譽褒貶は即自己の毀譽褒貶と思ふて頂きたい。此の信念さへ強固でありますれば。傳研の前途は洋々たるものであります。

傳研に對する愛の發露がありますれば。傳研の一物一事を使用しますのにも。其所に深い注意が拂はれます。「ガーゼ」の一片を使ふのにも。酒精の一滴を使ふのにも満身の注意が注がれます。決して物を粗末に致さなくなります。之れに反して。傳研の物は御上のものである。何れも官給品であるこいふ様な妙な氣分で居ります。其所に少しも親しみがありません。思はず物事が粗末になり勝ちになりはせぬかと思ふのであります。

此様に吾等が傳研なる信條は。實に精神的にも物質的にも極めて大切なる事柄であると思ふのであります。

5. 吾等の作つた規律を守りたい。此の點は先般長與先生も。吾々主任のものに懇懇御話になりました。私は過去を色々こ此所で申す必要はありません。後來に對する希望を述べ。併せてそれを實行したいのでありますから。此の點をよく御了解願ひたい。

さて。規律。官吏。官廳としての規則は色々ありますが。茲では其の一。二だけを申して見たい。第一は出勤の時間であります。一部の諸君には今日迄。大體申し分なく規律通りに行はれて居る様に思ひますが。さて技手。技師。所員諸君に御願ひ致したい。大體朝は9時か9時半には御出勤を願ひ。そして退廳も。4時を正規の時間とし御都合によつて遅れてもそれより1、2時間後には御退廳を願ひたい。研究の都合により止むを得ないこもあります。それは例外でありまして。常規でない様に致したい。朝遅く11時頃に御出勤になり。それだけ夜分遅く居られるこいふこはやめたいと思ひます。なぜかこの理由は申す必要もありません位であります。先づ第一官紀の上からもよくない。又其本所の經濟の上からもよくない。さうか規則正しくして行きたいと思ひます。例へば今後冬季の暖房等の關係から申しても1室2室の爲めに全體を夜中暖めるこは不可能でありますし。其他電燈瓦斯等に就いても相當の經費を要するのであります。

私は研究を爲す人に向つて出勤。退廳の時間を一律に事務的に八ヶ間敷くして行けこいふこは好みませぬが其所に大體標準をおきたい。極端なこは排除したいのであります。又上の爲す所下自ら之れに習ふの類でありまして後には眞に研究に携つて居ない人迄も。弛緩した氣分になり勝ちだと思ふて居りますから。此の點は特に所員諸君に深く御考慮を願ひたいと思ひます。

6. 傳研の内部を縦に連絡すると共に又横にも連絡したい。傳研の各部は夫々主任以下縦に深い連絡あることは申す迄もありませんが、其の上に私は各部を横に連絡したい。こもするこ縦の連絡が強過ぎ。横の連絡が弱過ぎて、隣り同志が他人がましくなることは傳研の爲めに誠によくないことでもあります。若しそれが盛になれば茲に競争心をそゝります。終に延いては不要な鬭争心迄も起して來ないことは申されませぬ。傳研の各部相互は全く兄弟、姉妹の關係でありまして必要に應じて有無相通すべきことは申す迄もありません。又今日迄實際に行はれて來たのでありますがそれを一層強固に致したいと思ひます。其爲めには、比較的大きな研究題目を捉へて、之れを各部で分擔し、其結果を2週に1回位の割合で所長列席の上で、互に討議して、研究を進めて行きたい。今日迄行はれて居ります特選研究が即ちそれではありますが、今後は尙一層それを大きくしまして、研究によつて横の連絡をし頻繁に互に討議を行ひ意見の交換を爲して以て全所を打つて完全なる融合の一團をしたいと思います。

尙私は時間の許す限り各室に御邪魔させて頂きまして、何を御研究になつて居るか、作業の状況は如何であるかを拜見させて頂きたい。之れによりまして私は諸君より御教へを頂きますし、又諸君の研究及作業に親しみこ理解の度を高めて行きたいと思ふて居ります。

以上を持ちまして私が所長に就任致しましたに際し、諸君への御挨拶をし、併せて此の首途に當りまして數々の希望を述べました。言ふことは易いがさて行ふことは却々に難いのであります。然し以上申し上げたことは一も實行不可能のことはありませぬ。茲に諸君の共鳴を得て、着々實況して行きたいと思ひます。

手をこりて學の道にいそしまむ

わがはらからよ國のみために

(昭和9年2月15日)

學術集談會開催

1月25日午後1時ヨリ所内講堂ニ於テ學術集談會が開催サレタ。演題ハ次ノ通りデアル。

演題

1. 家兔ノ化膿性顎骨炎ヨリ分離シタル一菌株ニ就テ
永田敏一君
2. 殘餘抗原ノ免疫反應ニ及ボス影響ニ就テ
岡本啓君
3. 大腸菌族ノ鑑別培養法ニ就テ(第二報)
手塚悦郎君
4. 經口免疫ノ「メカニスムス」ニ關スル研究綜説
城井尙義君
5. 歐米雜感
大山西一君

本研究所長ノ更迭

15ヶ年間ノ長キニ互ツテ所長トシテ本研究所ノタメニ盡瘁サレ本所今日ノ隆盛ノ基礎ヲ作ラレタ長與所長ハ昨春東大醫學部長就任ニ伴ヒ公務多忙ノタメ今回ソノ職ヲ辭セラレタノデ。去ル1月25日ニ開カレタ主任會議ノ席上ニ於テソノ後任トシテ嘗テハ長與前所長ノ洋行中ニ所長代理ヲ務メタコトガアリ。又前所長ノ女房役トシテコ、數年間諸般ノ事務ヲ擔任サレテキタ宮川教授ガ推舉サレ2月1日所長ノ榮職ニ補セラレタ。

學友會へ寄附

金2圓65錢	遠山祐三君
金150圓	外山新八郎君
金359圓38錢	藤田猛君
金20圓90錢	工藤正四郎君
金8圓11錢	守山英雄君
金41圓32錢	谷茂君

昭和九年一月中職員異動調

發令月日	異動事項	官職	氏名
12. 28	昭和8年12月26日付願研究生退學ノ件許可ス		田中實
1. 4	臺灣へ出張ヲ命ス	技師	山田信一郎
1. 6	昭和8年12月16日付願研究生入學ノ件許可ス		田中繼雄
1. 20	昭和9年1月18日付願研究生入學ノ件許可ス		金尾秀發
1. 25	東京府下へ出張ヲ命ス	囑託	福島伴次
1. 26	依願免本官	技手	岸田秋彦
1. 31	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		進藤宙二
„	同		江崎唯人
„	同		中村敬司
„	同		西下止夫
„	任傳染病研究所技手		波邊漸

報 雑

新舊所長送迎會に於ける三教授の挨拶

河本教授の挨拶

本日はごういふ風の吹き廻しか私に新舊所長の送迎の挨拶をしるごいふことでありますから簡単に御挨拶申し上げたいと思ひます。舊所長長與先生には此の度公務御多忙の故を以て傳染病研究所長を御辭任になりました。先生御多忙の事には全く御同情申上げて居りますので、先生の御健康の事を考へますご私なごは第一に御尤の事であるご申上げたのであります。右のやうな事情で所長はおやめになりましたが相變らず所員として兼任下さいまして吾々を今迄の如く御指導下さるごことになつて居ります。先生は長い間傳染病研究所長として御活動になりまして其爲めに傳染病研究所は名實共に世界に有数のものごになりました。

此の傳染病研究所が何處へ出しても推しも押されもせぬ物になりましたごは全く先生の温情ご力ごによるものでありまして、此度先生の銅像を所内に建立したいごいふ議もありますが藝術家に此の先生の温情ご力ごを立派にあらはして貰へば少し位は似て居なくごもよいご思ふ位であります。

此の温情ご力ごを以て將來も相變らず吾々を御指導下さるごことを茲に御願致します。

新所長の宮川教授も又長い間傳染病研究所に居られてユーモアに富んだ態度を以て所内を纏めて御出でになりましたし外に對しては強い力で御活動になつて居りました。此度長與先生が辭任せられるについて後任の所長を選定するに際して日本國中尋ねても決して此の人位適任者はないご思ふのであります。

幸に此の宮川教授を新所長に迎へるごこの出來ましたごは吾々の大に喜ぶごごでありますから茲に心から歓迎し、宮川新所長の下に吾々一致協力して軍人ならば各々軍規を守り、軍人精神に則り、スポーツマンならばスポーツマンシップを守り、何れでも心は同じであります。此のキャプテンの意圖の許に獻身的に傳染病研究所の發展の爲に努力したいご思ひます。

隣には城井老が居られますから城井老の御發聲で新舊所長の爲めに乾杯したいご思ひます。(拍手)

城井博士 乾杯の辭

長與前所長の挨拶

今日は盛大なる宴を開き私を送別して下さいますごことを厚く感謝します。

此度私の我儘な御願から所長を辭めさせてもらひましたが、之れは醫學部の方が傳染病研究所よりより大切であるからやめたごか。傳染病研究所に對する愛情が薄くな

つたから止めるさか、そういふのではない。反對に私は傳研を愛し深く其將來を考へるからこそ止めるのである。傳研の所長たる者は兼任ではいけない。毎日出勤して自ら陣頭に立ち萬事を見て居なければいけない。醫學部長と一緒にやることは到底不可能事である。今や傳研の幹部は立派な顔振れが揃つて居て實力もあるし、所長の後任としては既に試験済みの宮川博士がなられたのであるから、私が兼任で時々見廻るよりも遙に宜しい。私も適任者を後任に得て安心して居る。ごうぞ全所員協力一致して理想は出来る丈け高く持つて、世界最上のものを目指して奮勵努力して貰ひたい。

回顧すれば大正3年10月に傳染病研究所が文部省に移管されてから今日迄21年になります。

此の傳研移管問題は實に醫界での大事件でありまして、當時は世間の大問題になつたのであります。今日は此の移管の當時血清痘苗等の製造の爲に全責任を負ふて働かれた西澤、城井の諸博士が此所に居られますが、此問題の裏面の事情を比較的よく存じて居るものは現在では多くの關係者は物故せられて林教授と私と2人でありまして、幸當時の私の日記にも細かく書いてありますから、詳しいことはいつれ機會を見て發表したいと思ひます。遠からず出版される山川先生の傳記にも其當時のことが書かれてあるそうです。今日は簡単に當時の事情について一言申し上げたいと思ひます。傳研の所員が何故に傳研が大學に附置されるやうになつたかといふ歴史を判きり知つて置くことは必要であると思ふ。今迄は云はなかつたが今日此席上で之を云ふて置くことは私の義務であるやうな氣がする。傳研移管のことは當時世間一般に青山先生と大隈さんとの陰謀で行はれたやうに云はれ、今日でも尙之を信じて居る人もあるやうであります。それは全く事實無根のことで、移管のことは大隈内閣の前の山本内閣の時奥田義人さんが文部大臣に原さんが内務大臣の時に既にきまつて居たことで之を次の大隈内閣になつて實行したのである。その前に水産講習所も農商務省から文部省に移管されたのである。決して青山先生の陰謀で出来たのではないのであります。此の事に關しては青山先生は一言も辯解はされなかつた我々も黙つて居たがさういふことの絶對になかつたことを茲に申上げて置きます。

然らば移管された主なる理由は、何であつたかといふこと、傳染病研究所製血清痘苗類の製造作業もあるが總てが學術的基礎の上に立つて行はるべきものである。即ち元來學問の研究機關であるから學問の事は文部省なり大學なりに移すのが至當であるといふことから出て來たこのことでもあります。

此の研究所は此のやうな事情の下に出来たものでありますから、我研究所の使命はごこまでも學問の研究が主であることを忘れてはならぬと思ふのであります。

傳染病研究所も今度出来上る建築は研究部、作業部、病院全部が尨大なる一堂に集まるのでありまして此のやうにまごまつた研究所は世界に類がないと思ひます。此建物の中で、働く所員も亦和衷協同一大家族として全部が協力して進むやうに願ひたい。

繰返して申しますが傳染病研究所の使命は研究が主でありますから、ごこまでも研究本位に進んで行つていたゞきたいと思ひます。國內に重きをなし海外に名をなすこ

とも全く此の研究所からよい研究がどんどん續出するここによる外ないのであります。

病院に患者が多くなり、研究所の製品が多く世間に出るやうになるここも結構であります。これはごちらか云へば國內的の問題であつて傳染病研究所として世界に重きを成す爲には我研究所は一にも學問、二にも學問、三にも研究さいふ風にありたいと思ひます。

重ねて河本博士の御鄭重な御挨拶さあつ御もてなしを感謝します。(拍手)

宮川新所長の挨拶

只今河本教授から過分の讃辭をいたゞき恐縮に存じます。實際此の讃辭に私は適するや否やは全く今後にあるのでありまして、此の御言葉に副ふ様盡力致したいと思つて居ります。長與先生は長い間此の傳染病研究所を主宰せられて其規模は3倍にも4倍にも増大し本所の名聲は國內は申すに及ばず海外にも廣く知られるやうになりましたのであります。

今夕計らずも先生より有益な御言葉を頂きました。吾々は此の先生の御訓に基いて研究所の發展を期したいと思ひます。吾が傳染病研究所は其の名の如く學術の研究機關でありまして一にも研究、二にも研究、三にも學問さいふ信條を守つて行きたいと思ひます。それに長與先生は所長は辭せられましたが、相變らず本所の所員であられますし今後も今迄通りに吾々を御指導御鞭撻下さいませう御願申します。

それと同時に皆さんの心からなる御協力によりまして本所の使命を完ふすると共に益々發展してゆく様に願ふて居ります。

今夕は御鄭重なる歓迎の宴を御開き下さいまして誠に有りがたう存じます。(拍手)

附 記

以上三教授の演説文は去る2月22日午後5時本所に於て開かれたる宮川、長與新舊兩所長の送迎會に於ける御挨拶の筆記である。會場としては舊所長を送り新所長を迎へるに最も相應しい場所として目下完成の途上にある本館第一階廊下を使用した處來會者多數を極め、會場は豫想以上の出席者を迎へて主賓席を中心として兩端に細長く延長のやむなきに至つた。ために三教授の演説は來會者各位に洩れなく徹底すること困難なる結果となつた。何分にも同會は本研究所としては誠に記念的の會合であり同席上に於ける三教授の演説は文字として永く傳ふべきものであるの外前述の様な會場不備の點もあつたので茲に三教授の訂正を経たものを掲げ當日來會者各位の記憶を新にし且又所外學友會員各位への報告に代へんとするものである。

宮川新所長就任ノ挨拶

竝ニ披露

2月15日午後1時本所全所員講堂ニ參集同席上ニ於テ宮川所長カラ本誌前號掲載ノ如キ所長就任ニ就テノ挨拶ト所員ニ對スル希望ニ就テノ演説ガアツタ。尙新所長ハ同月19日、21日兩日ニ互リ帝國「ホテル」、東京會館ニ東大醫學部、文部省、内務省、警視廳、北研、傳研等ノ關係者ヲ多數招待ノ上所長就任ニ就テノ披露ノ宴ヲ張ツタ。

學術集談會開催

2月22日(木)午後1時カラ所内講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタ。演題ハ次ノ通りテアル。

演題

1. 精製痘苗ヲ以テスル皮下種痘免疫更新力ニ就テ
傳研 矢追秀武君
駒込病院 鈴木覺君
2. 流行性腦炎ノ病原ニ關スル實驗的研究(綜説) 羽里彦左衛門君

長與前所長壽像建立

過般本所長ヲ勇退サレタ長與先生ノ過去15年間ノ所長トシテノ功績ヲ記念シ、且又謝恩ノ意ヲ表スルタメ同先生ノ壽像ヲ作り之ヲ所内ニ安置スルコトナリ。學友會員有志ガ發起人トナツテ目下寄附金募集中テアル。尙竣成後5月吉辰ヲトシ長與先生及ビ御家族ヲ招待ノ上壽像除幕式ヲ舉行スル豫定テ目下夫々準備ヲ進メテキル。

矢追、大山、羽里、岸田諸氏ノ

送迎會

叢ニ歸朝サレタ矢追、大山、兩博士ノ歡迎會竝ニ今回獨逸ニ留學ヲ命セラレタ羽里博士又

「ヘルシヤ」ノ日本公使館醫官ヲ命セラレタ岸田秋彦氏ノ送別會ガ3月10日午後5時半丸ノ内中央亭ニ於テ開催サレタガ出席者ハ宮川所長、長與前所長、二木、石原兩前教授ヲ初メ70名以上ノ多數ニホリ非常ニ盛會テアツタ。

學友會ヘ寄附

一金 123 圓 83 錢	佐野忠君
一金 31 圓 80 錢	宮川米次君
一金 40 圓 70 錢	谷茂君
一金 18 圓 12 錢	木村政長君
	白杵仁君
	佐々木英一君
一金 42 圓 21 錢	木村政長君
	白杵仁君
	國重太郎君
	中込互君

昭和九年二月中職員異動調

發令 月日	異動事項	官職	氏名
2. 1	補傳染病研究所長	教授	宮川 米次
..	依願傳染病研究所長ヲ免ス	教授	長與 又郎
..	補傳染病研究所所員		
..	埼玉縣下へ出張ヲ命ス	技師	阿部 俊男
..	敘正七位	助教授	矢追 秀武
..	敘從七位	同	羽里彦左衛門
2. 13	任傳染病研究所技手		土屋 毅
..	細菌血清學及病理學研究ノ爲滿2年間獨逸國ニ在留ヲ命ス	助教授	羽里彦左衛門
2. 22	埼玉縣下へ出張ヲ命ス	囑託	菊池 常雄
2. 28	昭和9年2月27日付願研究生退學ノ件許可ス		河本 清

ノデアル。

此ノ現象ノ完全ナル説明ハ Ascorbinsäure (Prof. Szent Györgyi カラ送ラレタルモノ)ノ 缺乏ノ爲遺憾ナガラ 中止 シナケレバナラナイガ此ノ事實ハ動植物細胞中ニ於テノ Vitamin Cト Fe 及ビ Cu トノ關聯ヲ想像サセルニ役立

ツデアラウト云ツテキル。又 Karrer u. Zehender ハ Kathepsin ガ Vitamin C ニヨリ aktivieren サレルコトヲ認メテキルガ。此ノ際鐵ガ存在シタ爲ニ aktivieren サレタノデ、鐵ガナケレバ却ツテ抑制サレルモノデハ無イカトモ云ツテキル。(守山)

雑

報

學術集談會

去ル3月15日(木)午後1時カラ所内講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタ。演題ハ次ノ通りデアル。

演題

1. 「コレラ」菌ト類族免疫血清反應ヲ呈スル一新異種菌種(假稱岩田菌)ニ就テ
阿部 俊男君
2. 木出菌。岩田菌。「コレラ」菌間ニ見ラル、類族免疫血清反應ニ關スル研究
(1)凝集素吸收試驗成績
加地 信君
3. 超音波(Supersonic Waves)ノ生物ニ及ボス影響ニ就テ(綜説) 矢追 秀武君

觀梅園遊會

恒例ノ觀梅園遊會モ種々ノ關係デ中絶ノ状態ニアツタガ。今回都合ニヨリ由緒アル梅園モ一時取り拂ヒノ止ムナキニ至ツタノデ。コノ機會ニ盛大ニ觀梅會ヲ開カウト云フコトナリ。春秋會役員中デモ特ニ若手連ガ熱心ニ奔走シテ各種ノ準備ヲ整ヘテ當日ナル3月17日ヲ待ツテキタ。幸ニモ同日ハ小春日和ノ好天氣デアツタノデ萬事好調ニ進ミ。午後1時開園シタガ所内各團體カラ種々ノ隱藝ヲ演出。所員一同團樂ノ内ニ午後5時目出度閉會シタ。

學友會懇親會

今回第9回日本醫學會ニテ上京中ノ地方在住ノ會員歡迎ノ意味テ學友會懇親會ガ去ル4

月4日午後5時目黒雅叙園テ開催サレタガ出席者70名ヲ超ヘ非常ニ盛會デアツタ。

羽里、岸田兩氏出發

ベルシヤ國公使館附醫官ヲ命セラレタ岸田秋彦氏ハ去ル3月21日。又獨逸ニ留學ヲ命セラレタ羽里助教授ハ去ル4月7日。ソレゾレ當地ヲ出發目的地ニ向ハレタ。

第七十六回講習會

去ル4月12日カラ第76回講習會ガ開講サレタガ。今回ノ講習生カラ始メテ新講堂ヲ使用スルコトニナツタ。尙今回ノ講習生志願者ハ95名ト云フ多數テ定員ノ65名ヲ超過スルコト30名ト云フノデ。ヤムナク従前ノ例ヲ破ツテ佐藤講習主任ノ手テ詮衡試驗ガ行ハレタ。參考ノタメニ問題ヲ記セバ次ノ様デアル。

筆答試問

1. 水素「イオン」濃度
2. 免疫
- 3.

(イ)次ノ外國語ニ相當スル日本語ヲ記セ

- (1)Antigen (2)Meningitis
- (3)Milchsäure (4)Ultraviolett
- (5)Ferment (6)Extract
- (7)Concentration(8)Eiweiss
- (9)Sekretion (10)Nährboden

(ロ)次ノ符號ハ何ヲ意味スルカ

- (1)38°C (2)μ (3)HCl
- (4)NaHCO₃ (5)cc

新文獻抄録ニ就テ讀者諸

君へ御知セ

本誌文獻抄録欄ハ從來ノ習慣デハ比較的古
參ノ技手ガ擔任シ。大體2ケ年ノ任期ヲ以テ
最近10年間ハ井上、黒屋、中村、田宮ノ諸氏ノ
順序ヲ經テ最近2ケ年間ハ武田ガコノ仕事ヲ
命セラレテキタ。元來文獻抄録ハ廣イ範圍ニ
ワタツテ新業績ヲ紹介シテ始メテ意義ヲ有ス
ルモノデ。之ガタメニハ是非共多人数ノ協力
ヲ俟タテバナラスコトハ云フマデモナイコト
テアル。今回コノ理想實現ノ第一歩トシテ新
ニ中込、守山、工藤ノ三氏が次號カラ執筆セ
ラルコトニナツタノデ何レ5月號カラハ多少
面目ヲ一新スル所ガアリ幾分タリトモ讀者諸
君へ奉仕ノ機會モアラウト思フ。

學友會へ寄附

一金144圓54錢 輕部久喜君
一金11圓11錢 宮川米次君

昭和九年三月中職員異動調

發令 月日	異動事項	官職	氏名
2. 28	依願免本官	技手	藤原 正
3. 2	昭和9年1月8日付願研究生入學ノ 件許可ス		岡田 傳入
„	昭和9年3月1日付願研究生繼續ノ 件許可ス		小澤 英作
3. 7	昭和9年3月6日付願研究生繼續ノ 件許可ス		門脇 良徳
„	東京府下へ出張ヲ命ズ	囑託	福島 伴次
3. 17	中央衛生會委員被仰付	教授	長與 又郎
„	同	同	宮川 米次
3. 31	陸彼高等官四等(防疫官)	助教授	小島 三郎

15.1 > rH cell > 9.2

次ギニコノ兩物質ノ赤血球ノ呼吸ニ及ボス影響ヲ檢シタガ兩者共ニ呼吸ヲ促進スルコトヲ知ツタ。

コノ點テ面白イコトハ先キニ Warburg ノ實驗テハ methylenblau ハ赤血球ノ呼吸ヲ促進スルモノデアアルガ氏ノ解釋ニヨルト methae-

moglobin が形成セラレ、之が carbohydrate ヲ酸化スルタメデアルト云ツテキル。コノ考ヘハ Juglon ノ場合ニハ理論的ニモ實驗的ニモ證明セラルケレド、Lawson ノ場合ニハ理論的ニモ haemoglobin ヲ酸化スル能力ナク又實際上モ methaemoglobin が證明サレナイ。

(武田)

雑 報

學術集談會

去ル4月26日(木)午後1時ヨリ所内新講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタ。演題ハ次ノ様デアアル。

演 題

- 1. 「ヂフテリアトキソイド」ノ免疫原性ノ定量法ニ就テ 田中哲之助君
- 1. 濾過性病毒疾患ト昆蟲(綜説) 山田信一郎君

岡西順二郎氏送別會

今回文部省在外研究員ヲ命セラレタ岡西順二郎氏ノタメニ去ル5月14日正午所内地下室臨時食堂ニ於テ送別會ガ開カレタガ出席者50名。各主任カラソレゾレ簡單ナ送別ノ辭ガアリ。家庭的ナ送別會デアツタ。尙同氏ハ17日午後3時解纜ノ淺間丸テ渡米サレタ。

學友會へ寄附

金7圓87錢 安川 隆君
手塚悦郎君
金117圓99錢 新見正喜君

昭和九年四月中職員異動調

發令 月日	異動事項	官職	氏名
8. 31	滿期退學(陸軍派遣研究生)		
		一等獸醫	辻 嘉一
		一等軍醫	碓 常重
	依願免本官	教授	林 春雄

3. 31	任傳染病研究所技手	石原 守
..	同	五十嵐正治
..	同	大竹 巖
..	同	能美 貫一
..	同	宮本 正治
..	同	大久保 關
..	傳染病研究所業務囑託ヲ解ク	
		石原 守
..	同	五十嵐正治
..	同	大竹 巖
..	同	能美 貫一
..	同	宮本 正治
..	同	大久保 關
4. 2	昭和9年4月1日付願研究生繼續ノ件許可ス	川崎 治
4. 9	醫師試驗委員被仰付	
		教授 田宮 猛雄
4. 10	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク	西島 一郎
4. 13	北海道へ出張ヲ命ス	
		助教授 細谷 省吾
4. 14	朝鮮へ出張ヲ命ス	
		囑託 池田 武夫
4. 18	傳染病研究所業務ヲ囑託ス	
		後藤 敏夫
..	同	鈴木 勝治
..	同	松井 守一
..	同	橋浦 友義

4. 18 傳染病研究所業務ヲ囑託ス

高木直二郎
” 同 神子 謙
” 同 柳井 時正

4. 18 傳染病研究所業務ヲ囑託ス

” 同 森成
” 同 金澤
” 同 高橋

雜 報

長與博士壽像除幕式ニ於ケル
式辭ト答辭

宮川所長ノ式辭

閣下竝ニ諸君、本日茲ニ長與博士壽像除幕式竝ニ傳染病研究所新築記念會ヲ舉行スルニ當リマシテ、一言御挨拶ヲ申シ述ベマスルコトハ私ノ光榮トスル所デアリマス。

長與又郎先生ハ明治37年12月東京帝國大學醫科大學ヲ卒業セラレ、次デ同學ノ助手トナラレ、同43年2月同學ノ助教授ニ、44年ニハ教授ニ累進セラレ、其間終始病理學、病理解剖學ノ講座ヲ擔任セラレマシテ今日ニ至ツテ居ルノデアリマス。

傳染病研究所ハ大正3年11月內務省ヨリ文部省ニ移管セラレ、次デ5年3月ニ東京帝國大學ニ附置セラレマシタ。長與先生ハ移管ト同時ニ本所ニ這入ツテ兼任技師トナリ、所員トナツテ、同ジク病理學部ヲ主宰セラレマシタ。大正8年6月ニハ傳染病研究所長ニ補セラレマシテ以來約15ケ年間孜々トシテ本所ノ爲メニ御盡力下サレタノデアリマス。其ノ御功績ノ二、三ヲ申シマスナラバ、例ヘバ本所官制ヲ改正セラレマシテ、職務ノ擴充ヲ計ラレマシタ。即チ所員制度ヲ確立サレ、同時ニ定員ヲ略々倍數ニ増サレマシタ。隨ツテ、本所ニ於ケル研究學部ノ數モ倍加シマシタシ、豫算ニオキマシテモ、殆ンド倍額ノ増加ヲ見テ居リマス。

先生ハ常ニ本所ノ精神トシテ人格ノ養成ヲ經トシ、學術ノ研究ヲ緯トサレ常ニ一ニモ研究、二ニモ研究、三ニモ學問ト言フコトヲ忘レテハナラヌト申サレテ居リマス。コノ事ハ吾々後進ニ戒トセラレタバカリデナク先生御自身モ此ノ精神ヲ堅ク把持サレテ居ルノデアリマシテ、從ツテ學術上數々ノ大業績ヲ殘サレテ居ルノデアリマス。今其内ノ一、二ヲ申シマスナラバ病理學ノ方面ニ於キマシテハ肝硬變ノ病變ヲ二型ニ分類セラレマシタ。之レハ今日内外ノ病理學者ニ利用セラレテ居ルノデアリマス。脚氣ノ病理解剖學的研究モ誠ニ立派ナル業績ト承ツテ居リマス。又傳染病學ノ方面ニ於キマシテハ約20年間ニ亙ツテ、恙蟲病ノ御研究ニ没頭セラレマシテ、其結果恙蟲ノ全發育環ノ闡明ト其分類ヲ完成セラレタノミナラズ、終ニ恙蟲病病原體ヲ發見、確定セラレマシテ、豫防治療ニ對スル指針ヲ作ラレマシタ。誠ニ傳染病研究所ノ業績トシテ相

應シイ。然カモ立派ナ業績ト申スベキデアリマス。

先生ハ常ニ研究ニ従事セラレル際モ、アラユル方面ヨリ徹底的ニ探究シテ行カレルト言フ方針デアラレマス。御自身が病理學者ナルガ故ニ病理學ニノミ局限スルトイフ様ナ窮屈ナ所ハアリマセヌ。例ヘバ恙蟲病ノ御研究ニ於テモ先ヅ蟲ノ御研究ニ數ケ年間没頭セラレタノデモ其ノ一端ハ同ハレルト思ヒマス。特ニ、多クノ特徴アル人ヲ其得意ノ方面ニ向ハセテ、研究ノ歩ヲ進メテ行カレマシタコトハ敬服ノ外ハアリマセヌ。例ヘバ、「インフルエンザ」ノ世界的流行ノアリマシタ時ニハ殆ンド全所員ヲ擧ゲテアラユル方面ヨリ探究シテ、終ニ其豫防ワクチンヲ定メラレマシタ。近時本邦ニ於ケル癌腫ノ狀況ヲ知ル爲メニハ全國ノ同好研究者ヨリ其ノ知見ヲ集メラレマシテ、精確ナル所見ヲ得ラレマシタ如キモ1例ト思ヒマス。學問ニ對スル先生ノ斯クノ如キ態度ハ吾々が今後至難ノ問題ノ研究ニ當ツテ取ツテ以テ範トスベキデアルト信ズルモノデアリマス。

以上ノ様ナ主義ノ下ニ先生ハ又吾々後進ヲ誘掖セラレマシタ關係上、先生ノ所長御在職中ニ本所カラハ相當多クノ注目スベキ業績ガ發表セラレテ居ルト思ヒマス。

尙先生ハ震災デ大破致シマシタ本所ノ復舊、再建ニ關シマシテモ引キ續キ一方ナラザル御盡力ヲ致サレマシテ、今日約三分ノ二ハ御覽ノ如ク立派ニ再築セラレマシタ本所ノ最モ重大ナル使命ヲ荷ツテ居リマス研究部ノ總テハ此ノ新研究所内デ研究ヲ致シ得ル事ニナリ。餘ス所ハ病院ノ一部ト畜舎ノ一部トデアリマス。從來ノ不完全ナリシ研究室ヲ思ヒ較ベマスト、此ノ立派ナル研究室ニ於ケル吾々ハ尙一層緊張努力シテ外觀ニ劣ラヌ優秀ナ業績ヲ完成シナケレバナラヌト深く心ニ期シテ居ルノデアリマス。

長與先生ハ昭和8年4月東京帝國大學醫學部長ニ補セラレマシテ、公務ガ一層御多忙ニナラレマシタガ爲メニ本年2月本所ノ所長ヲ辭任セラレマシタコトハ本所ノ爲メニハ誠ニ遺憾ニ存ジマスガ、尙本所所員トシテ依然トシテ吾々ヲ御誘導下サレルコトニナツテ居ルノデアリマスカラ、コノ點ニ於テ吾々ハ尙意ヲ強フシテ居ル次第デアリマス。然シ此ノ機會ニ際シマシテ本所關係ノ有志ガ相謀リ先生ノ胸像ヲ得テ、其ノ溫容ニ接シタイト存ジ其ノ企ヲ發表致シマシタル所多數ノ御贊同ヲ得マシタノミナラズ、製作ノ方ハ斯道ノ大家日名子實三氏ガ熱心ニ従事セラレマシタ結果今日茲ニ其除幕式ヲ舉行スルヲ得ルコトニ立チ至リマシタコトハ誠ニ私ノ欣快ニ堪ヘナイ所デアリマス。尙先程申シタ如ク本所ノ新建築モ略々落成シマシタノデ之レモ此ノ機會ニ同時ニ先生並ニ來賓各位ニ御覽ヲ願ヒタイト存ジテ聊カ其準備モ致シテ居ル次第デアリマス。

本日ハ御多用中ノ處、長與先生始メ御家族ノ御臨席ヲ忝フシマシタ事ニ對シテハ厚ク御禮ヲ申述ベマス。

尙又、小野塚總長ヲ始メ、多數ノ諸先生、竝ニ遠路態々多數ノ來賓ノ御參加ヲ得マシテ此ノ舉ニ華ヲ添ヘテ下サイマシタコトニ就キマシテハ、素ヨリ長與先生ノ德望ノ致ス所デアリマスガ、主宰者トシテ感謝ニ堪ヘナイ所デアリマス。コノ點ニ關シマシテモ厚ク御禮ヲ申述ベマシテ私ノ式辭ヲ終ラウト存ジマス。

長與博士ノ答辭

本日傳染病研究所ノ新築ガ大部分完成シ、ソノ披露トモイフベキ御日出度イ日ニ、私ノ胸像除幕式ヲ催サラレ、斯クモ盛大ナル式典ヲ舉ゲテ私ノミナラズ家族一同迄モ御招待ヲ蒙リマシタコトハ、寔ニ身ニ餘ル光榮デアリマス。

唯今河本委員長ヨリ詳細ノ御報告ヲ承ハリ、始メテ私ノ想像以上ニ廣イ方面ニ御贊同ヲ願ヒ且御迷惑ヲカケタコトヲ承知致シ、誠ニ恐縮致シテ居リマス。

皆様ノ御好意ニヨツテ美事ナ胸像ガ出來上リ、ソレガ私ノ終生念頭ヲ離レルコトノ出來ナイ傳染病研究所ノ、而モソノ講堂内ニ据エラル、コトハ、誠ニ感激ニ堪ヘマセン。

マタ其上ニ思ヒ掛ケナイ美事ナ記念品モ頂戴致シマシテ重キ重キノ御厚意ニ感謝致シマス。

此レリーフハ胸像ノ作者日名子君ノ傑作ノ模型デアツテ、ソレガ帝大醫學部ノ新築外來ヲ飾ルモノデアリ、マタ其圖案ガ文化文政時代私ノ故郷長崎ヲ中心トスル、日本ト歐洲トノ文化ノ交渉ヲ象徴シタモノデアリ、其内ニ私ノ好キナ「オランダ船ヲモ畫カレテ居ルノハ私ニトツテ此上ナイ好個ノ記念品デアリマシテ、此御心入ノ御配慮ニ對シテモ厚ク御禮ヲ申上マス。

マタ唯今ハ宮川所長、島藺秦兩博士ヨリ縷々私ノ致シマシタ小サナ仕事ニ對シテ過分ノ御言葉ヲ頂戴シ、誠ニ感謝ニ堪ヘマセンガ只私ハ自ラ顧ミテ却ツテ汗顔ノ至デアリマス。私ハ到底コレ程ノ御褒詞ヲ甘受スル資格ハ無イ者デアリマス。

大正8年6月私ハ林博士ノ後ヲ襲フテ所長ニ補セラレタノデアリマスガ、自分ハ其任デナイガ、一旦御推舉ニヨツテ決定シタ以上ハ、及バズナガラ最善ノ努力ヲ盡シタイト決心致シタノデアリマス。所長トシテ今後採ルベキ方針トデモ申シマスカ主義トデモ申シマスカ兎ニ角次ノヨウナ考ヲ持ツテ居タノデアリマス。

第一ハ傳染病研究所ハ國家ノ重要ナ機關デアリ、私有物デハナイ、ソレ故萬事一層公平無私ノ態度デヤツテ行カネバナラス。

第二、將來ノ發展ヲ謀ルニハ何事ヨリモ大切ナルハ人材ヲ網羅シ養成スルコトデア
ル、一モ人二モ人三モ人、

第三、研究所ハコノ道ニ於テハ世界最上ノモノヲ目標トシ、理想ヲ出來ル丈高く持
ツテ事ノ成否如何ヲ問ハズヤツテ見ル。

コンナコトガ當時壯年客氣ノ旺ンデアツタ私ノ日記ニハ書イテアリマス。

然ルニ年月ハ流ル、如ク、早クモ 15 年ヲ經過シタ今日、顧ミテ過去ノ成績ヲ見ル
時、事ハ志ト違ヒ、自分ノ理想ノ一ノ一ヲモ仕遂ゲテハ居リマセン。而已ズ失敗モ數
々アリマス、ソレニモ拘ラズ、傳研ガソノ三大使命デアル所ノ研究、製造、病院ノ三
方面ニ於テ相當進歩シタモノガアルナラバ、ソレハ固ヨリ私一個人ノ力デアリマセ
ン、總テ是レ幹部同僚諸君及全所員ノ努力ノ結果デアリマシテ、私ノトルベキ分前ハ
若シソレガアルトシテモ極メテ小サナモノデアルコトハ自覺シテ居マス。

此間ニ於テ幹部ノ内ニモ、其他ノ職員ノ内ニモ、既ニ故人トナラレタ人が數々アリ
マス。私ハ今日是等ノ人々ノ研究所ニ盡シタ功績ヲ追想ヒズニハ居ラレマセン。

更ニ溯ツテ考ヘルナラバ、羅馬ハ一日ニシテ成ラズトイヒマス。研究所ノ今日アル
モ、古イ光輝アル歴史ヲ持ツ基礎ガアツタカラデアリマス。我々ハ傳研ノ創立者故北
里博士及ソノ幹部諸君ノ多大ナル功勞ヲ忘レテハナリマセン。

斯ク考ヘテ見マスト、今日皆様ヨリ斯程ノ御待遇ヲ受ケルコトハ、定ニ私ノ分ニ過
ギタコトデアリマシテ、寧ロ慚愧ニ堪ヘナイ感ガ致スモノデアリマス。

而已ナラズ私ハ在職中、度々外國ニ出張シテ留守ヲ致シテ居リマスルシ、殊ニ近年
ハ長イ間病氣ノ爲メニ休養ヲ餘儀ナクセラレタノデアリマス。普通ナラバ退職ノ機會
ハ既ニ其時ニアツタノデアリマス、ソレニモ拘ラズ、皆様ノ私ノ缺點ト、怠慢トヲ大
目ニ見テ下サツテ、本年迄其職ニ止マルコトヲ得タノハコレ偏ニ傳研幹部諸君及所外
ノ多數ノ先輩、同僚各位ノ御同情ノ賜デアリマシテ、此機會ニ於テ多年ノ御厚情ニ對
シテ、萬腔ノ謝意ヲ表シマス。

今ヤ研究所ハ新ニ所長トシテ最適任デアル宮川博士ヲ迎へ、優秀ナル幹部ヲ有シ、
少壯學者ニモ多士濟々デアリ、マタ全所員ハ能ク一致協力互讓ノ精神ヲ以テ忠實ニ職
務ニ從事シテ居リマス。傳染病研究所ノ將來ハ實ニ洋々タルモノデアリ、其發展向上
ハ私ノ信ジテ疑ハヌ所デアリマス。

茲ニ研究所ノ將來ヲ祝福シ、重キテ此度ノ御計畫ト、今日ノ御寵招ニ對シテ厚ク御
禮ヲ申上マス。

長與博士壽像除幕式

豫テ日名子實三氏ニ委囑シテ製作中デアツタ長與先生ノ胸像モコノ程漸ク完成シタノテ、之ヲ本所講堂ニ安置シ永ク先生ノ風貌ニ接スルコトニナリ、6月16日ノ吉日ヲトシテソノ除幕式ガ舉行サル、コトニナツタ。尙先生所長在職中ノ一大事業デアツタ本所ノ復興建築モ病院ノ一部ヲ除イテ完成シタノテ、コノ記念スベキ當日ニ兼テ、本所ノ新築披露モ舉行スルコトニナツタ。

除幕式ノ當日ニハ主賓トシテ長與先生ヲ始メ御家族ノ臨席ヲ得來賓トシテ、栗屋文部次官、小野塚東大總長、入澤、林、北島、佐多博士等醫界ノ長老、名士、學部關係者、學友會員等約400名折柄ノ雨中ニモカ、ハラズ出席ノ上新講堂ニ於テ嚴肅ナル除幕式ガ舉行サレタ。午後2時開式、河本委員長ヨリ經過報告ガアリ、次イテ長與先生命息弘君ノ手ニヨツテ胸像ノ蓋ガ除カレ、滿場拍手ヲ以テ先生ノ壽像ヲ迎へ、次イテ宮川所長ノ式辭、島箇、秦、兩博士ノ祝辭、長與先生ノ答辭ガアツテ午後4時日出度式ヲ終へ、更ニ新館屋上テント内ニ於テ祝杯ヲ舉ゲタ。尙式後來賓ヲ始メ一般參觀者ニ、研究室ヲ開放シテ參觀ニ供シタ。

尙當日ノ長與先生ノ答辭、宮川所長ノ式辭ハ別項ニ掲ゲ永ク記念トスルコトニシタ。

學術集談會開催

去ル6月14日午後1時ヨリ所内講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタ。演題ハ次ノ如クデアル。

1. 「ヂフテリアトキソイド」ノ精製(續報)
細谷 省吾君
田中哲之助君
利部光四郎君
2. 各國ニ於ケル「ヂフテリア 豫防」ノ現況

(綜説)

細谷 省吾君

宮川所長、阿部技師滿洲國へ出張

宮川所長、阿部技師ハ滿洲國ノ醫事衛生視察ノタメ1ヶ月ノ豫定テ去ル6月17日、滿洲國ニ向ケ出發サレタ。尙所長ノ不在中ハ高木教授ガ所長代理ヲ命セラレタ。

學友會へ寄附

- 金31圓45錢 手塚 祝 郎君
- 金16圓80錢 佐藤 秀三君
安藤 啓三 郎君
- 金272圓74錢 桑原 藤馬君

昭和九年五月中職員異動調

發令 月日	異動事項	官職	氏名
4. 26	埼玉縣下へ出張ヲ命ス		
		囑託	菊池 常雄
5. 1	昭和9年4月30日付願 研究生退學ノ件許可ス(検査部)		小川 透
5. 1	昭和9年5月1日付願 研究生入學ノ件許可ス		渡部 一郎
5. 1	神奈川県下へ出張ヲ命ス		
		技手	田中 正稔
		同	柳澤 謙
5. 7	依頼傳染病研究所ニ於ケル治療研究業務囑託ヲ解ク		河瀬 純三
5. 8	内科學及傳染病學研究ノ爲滿1ケ年間亞米利加合衆國ニ在留ヲ命ス		
		技手	岡西順二郎
5. 19	東京府下へ出張ヲ命ス		
		同	田中 正稔
		同	柳澤 謙
5. 24	任傳染病研究所技手		
		北海道帝國大學助手	大久保 薫
5. 25	大阪府下へ出張ヲ命ズ		
		教授	宮川 米次
5. 25	同	事務官	檜山兼次郎

雜

報

第76回講習終了式

去ル7月10日(火曜)、午前10時半ヨリ所内新講堂ニ於テ第76回講習終了式ガ舉行サレ、式後11時半ヨリ四階記念室ニ於テ、講習生ヲ招待シ送別午餐會ガ開催サレタ。

學友會へ寄附

金46圓97錢	外山新八郎君
金4圓63錢	高田眞君
金28圓48錢	細谷省吾君
	小澤英作君
	田中哲之助君
金13圓73錢	輕部久喜君
金11圓48錢	横井鎌次郎君
金26圓45錢	{佐々木英一君 白村仁君 木村政長君

昭和九年六月中職員異動調

發令月日	異動事項	官職	氏名
6. 4	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		補永 茂夫
6. 8	神奈川県下へ出張ヲ命ス	技手	田中 正稔
..	同	同	柳澤 謙
6. 12	滿洲國へ出張ヲ命ス	教授	宮川 米次
..	同	技師	阿部 俊男
6. 16	傳染病研究所長宮川米次滿洲國出張不在中代理ヲ命ス	教授	高木 逸磨
6. 29	東京府下へ出張ヲ命ス	技手	田中 正稔
..	同	同	柳澤 謙

第十八卷第六號 正 誤

頁	行	誤	正
769	9	金31圓45錢	金31圓54錢

L. Utkin u. R. Topstein,

Bioch. Z. 273 Band. 1-2 Heft. 36. 1934.

著者等ハ副腎 Lipoid ノ Phosphatidfraktion 及ビ卵黃ノ Lecithin ガ血壓降下性ニ作用スル一種ノ Phosphatid ヲ有スルコトヲ發見シタ。此ノ Phosphatid ノ酸ニ對スル比較的大ナル抵抗カヲ利用シテ他物質カラ分離スルコトガ出來ル。ソノ作用ハ Cholin ニ似テキルガ之ト全く同様ト云フヲケテハナイ。(守山)

新刊紹介

H. F. O. Haberland 著. Die Operative Technik des Tierexperimentes (1934.)

Berlin, Urban & Schwarzenberg 書店カラ

本誌宛ニ寄贈セラレタモノ。著者ハ Köln 大學外科學ノ教授。各種ノ實驗動物ニ就テ夫々ノ取扱方釐ニ動物實驗手技ノ方法ガ詳述サレ。且各動物ノ簡單ナ解剖圖ガ添ヘテアル。本書ハ改訂第二版ヲ初版(1926)ニ比ベ插圖ガ殖ヘ。又動物麻酔ノトコロニハ Avertin (最近、外科ヲ盛ニ用ヒラレテキル藥テ犬ニハ Pro Kilo. 1 g 量ヲ 20% ノ油溶液トシテ用ヒ猫ニハ 0.5 g 量ヲ 3% ノ水溶液トシテ用フ。家兎ニハ不適當)ト Pernokton トノ 2 新藥ガ又 Elektronarkose 法ガ新シク記載サレ。其他 Nervensystem, Herz, Magen, Darms, Niere, Nebenniere ノ各手術ニツイテハ殊ニ詳細ニ尙初版ニ見ナイ文獻集ガ新シク添加サレテキル等一層ソノ完成ニ努メラレテアル。

雜

報

第七十七回講習開講

9月10日ヨリ12月8日ニ至ル公衆衛生ノ講習ヲ開講サレ。10日午前10時當所講堂ニ於テ講習開講式ガ行ハレタ。

學友會へ寄附

金 12圓60錢也 守山 英雄君
金 44圓57錢也 村田 廣次君
金 135圓78錢也 武田 英一君

昭和九年八月中職員異動調

發令月日	異動事項	官職	氏名
7. 30	任陸軍一等軍醫		
		委託研究生	早川 清
8. 16	退學(警視廳委託)		
		研究生	柏木 正章
	入學(警視廳委託)		
		研究生	武井 鏡司

第十八卷第八號 宮脇直一論文正誤表

頁	段	誤	正
1016	第 22 表六段目	B(A×10)	B(Aノ十倍稀釋液)
1016	第 22 表七段目	C(B×10)	C(Bノ十倍稀釋液)
1016	第 22 表八段目	D(C×10)	D(Cノ十倍稀釋液)
1028	第 36 表一段目	V	V(K)
1028	第 36 表八段目	V	V(K)

雜 報

阿部博士送別會

今回阿部俊男博士ハ滿洲國ノ懇望ニヨリ同國ノ衛生技術廠長ニ就任セラレタノテ其送別會ガ去ル9月21日午後6時、中央亭ニ於テ開カレタガ、出席者114名ト云フ非常ナ盛會デアツタ。席上發起人トシテ佐藤教授ノ挨拶後宮川所長、長與前所長カラソレゾレ阿部博士今回渡滿ノ重大ナル使命ニ就テ、之ガ遂行ニハ一大決意ヲ必要トスル點ヲ力説激勵ノ言葉ガアリ、阿部博士カラモ之ニ對スル決心抱負ノ披瀝ガアツテ、新興國家ヘノ赴任送別會ニハ相應シイ活氣ヲ見セ午後9時盛會裡ニ閉會シタ。

學術集談會開催

去ル9月27日午後一時カラ所内講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタガ、宮川所長カラ別項綜説欄記載ノ如キ滿洲國見聞談ガアリ聽衆者多數盛會デアツタ。尙演題ハ次ノ通りデアル。

1. 實驗的「ヂフテリア」麻痺ニ就テ (續報)
小澤 英作君
2. 鶏ヲ精製「ヂフテリアアナトキシソ」ヲ以テ免疫シテ發生シタル抗毒素ノ卵及ビ雞ヘノ移行ニ關スル研究
小澤 英作君
3. 雙棲吸蟲科(Didymozooiidae)ノ新分類
石井信太郎君
4. 麻疹ノ疫學(綜説)
野邊地慶三君
5. 滿洲ニ於ケル見聞
宮川 米次君

學友會へ寄附

- | | |
|-----------|--------|
| 金60圓5錢也 | 宮川 米次君 |
| 金16圓68錢也 | 工藤正四郎君 |
| 金25圓30錢也 | 中山 二郎君 |
| 金100圓10錢也 | 保坂 直人君 |

昭和九年九月中職員異動調

昭和9年10月4日 傳染病研究所

異動事項	官職	氏名
昭和9年6月30日付願研究生退學ノ件許可ス		山川 義信
昭和9年2月1日願研究生入學ノ件		

許可ス		矢田 與久
昭和9年2月21日付願研究生入學ノ件許可ス		井上 喜市
昭和9年2月28日付願研究生入學ノ件許可ス		入田 善保
昭和9年6月19日付願研究生入學ノ件許可ス		藤田 忠夫
傳染病研究所業務ヲ囑託ス		輕部彌生一
中華民國へ出張ヲ命ズ		教授 三田村篤志郎
昭和9年9月11日付願研究生繼續ノ件許可ス		内田 顯義
任傳染病研究所技手		
海軍軍醫 大尉正七位		進藤 宙二
朝鮮へ出張ヲ命ズ		技手 大山 西一
南洋諸島へ出張ヲ命ズ		囑託 安川 隆
昭和9年9月17日付願研究生繼續ノ件許可ス		渡會 次郎
研究事項修了ニ付退學		
海軍技術研究所委託研究生		手島安太郎
同 日本赤十字社病院委託研究生		石島 直輔
昭和9年9月23日付願研究生退學ノ件許可ス		橋本 了
大阪兵庫和歌山ノ一府二縣下へ出張ヲ命ズ		囑託 菊池 常雄
朝鮮へ出張ヲ命ズ		技手 佐藤 久藏
依願傳染病研究所ニ於ケル細菌學研究業務囑託ヲ解ク		囑託 中島 壽
東京府下へ出張ヲ命ズ		同 福島 伴次
依願免本官		技師 阿部 俊男
昭和9年9月29日付願研究生退學ノ件許可ス		田畑 良造
昭和9年9月30日付願研究生退學ノ件許可ス		白 杵 仁

min B₁ ハ S 含有化合物デアスコトが確定サレタ。ソノ後糠カラモ結晶性 Vitamin が得ラレタガ之モ亦酵母カラ得ラレタモノ、全ク同様ニ S 化合物デアツタ。

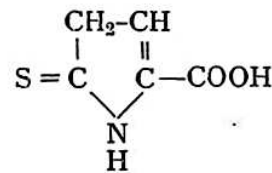
此ノ Vitamin = Windaus 以下ノ人々ハ C₁₂H₁₆N₄O₂S ナル式ヲ與ヘタが大嶽ハ C₁₂H₁₆N₄O₂S 或ハ C₁₂H₁₈N₄O₂S ナル分子式ヲ又 Van Veen ハ C₁₂H₂₀N₄O₂S ナル式ヲ與ヘタ。

最近 Peters 及ビ van Veen ハ今迄單一ノ化合物ト思ハレテキタ結晶性 Vitamin B₁ ハ更ニ之ヲ精製スルコトニヨリソノ作用ヲ2倍増進サセルコトが出來ルト主張シテキル。即チ今迄作ラレタ Vitamin B₁ ノ結晶ハ尙 50% ノ不純物ヲ含有スルト云フコトアル。著者等ハ早速此ノ追試験ニ取りカ、ツタガ、Vita-

min B₁ ノ高價ナル爲、研究ハ思フ様ニハカドラナイ。然シソノ中確實ナ結果が得ラレ次第報告スルデアラウ。

此ノ報告ハ單ニ Vitamin B₁ ノ分解生産物ニ就テ爲サレタ。Vitamin B₁ ヲ慎重ニ硝酸ヲ以テ酸化スル時ハ5個ノ C 原子ヲ有スル2個ノ特徴アル物質ニ分解スル。此ノ中ノ一ツハ C₅H₆O₂N₂ ナル式ヲ有シ Dioxymethyl-pyrimidin ラシイ。他ハ C₅H₅O₂NS ナル式ヲ有シ恐ラク次ノ様ナ構造式ヲ有スルモノデアラウ。

(守山)



雜 報

中島壽博士送別會

中島壽博士ハ今回東京市衛生試験所ノ技師ニ就任サレ醫學的検査部ノ部長トシテ市ノ保健衛生ノタメニ盡力セラル、事ニナツタノデソノ送別會が去ル10月9日午後6時中央亭ニ於テ開カレタ。

學術集談會開催

去ル10月18日午後1時ヨリ所内講堂ニ於テ學術集談會が開催サレタ。

演題ハ次ノ通りアル。

1. 「ヴィタミン」B 缺乏食竝ニ精白度ヲ異ニセル各種米飼養家鷄血液葡萄糖分解作用ニ就テ
江 良 一 雄君
2. 鳥類及哺乳動物血液葡萄糖分解作用ノ一、二比較實驗 江 良 一 雄君
3. Xanthon 色素ノ二、三ニ就テ
大 山 西 一君
4. 野兎病原體菌(Tularensis 菌)ノ鞭毛染色ノ「デモンストラチオン」

西 澤 行 藏君
金 子 勘 太 郎君

5. 飼養ヲ異ニセル動物ノ運動ニヨル諸變化ニ就テ(綜説)

河 本 禎 助君

學部ト業務擔任ノ變更

今回新館移轉ト阿部技師ノ滿洲國衛生技術廠長就任ニトモナヒ學部及ビ業務擔任ノ變更が去ル11月1日付ヲモツテ次ノ如ク發表サレタ。

第1細菌血清學部(ベスト)

主任 教授 高 木 逸 磨

第2細菌血清學部 (ヂフテリー)

主任 教授 田 宮 猛 雄

第3細菌血清學部 (破傷風、瓦斯「ブランド」其他嫌氣性病原菌、蛇毒)

主任 助教授 細 谷 省 吾

第4細菌血清學部 (腸「チフス」、 「パラチフス」、 「コレラ」、 大腸菌族)

主任 教授 田 宮 猛 雄

第5細菌血清學部 (赤痢)
 主任 助教授 矢 追 秀 武

第6細菌血清學部 (猩紅熱、連鎖球菌、葡萄
 狀球菌、濾過性病原、腦脊髓膜炎、淋菌)
 主任 助教授 矢 追 秀 武

第7細菌血清學部 (結核、癩、肺炎、「インフ
 ルエンザ」、百日咳)
 主任 教 授 佐 藤 秀 三

第8細菌血清學部 (黃疸出血性「スピロヘー
 タ」、鼠咬症、微毒「スピロヘータ」、腦炎
 疫 學 部
 主任 技 師 野 邊 地 慶 三

防 疫 學 部 (食品防疫、非病原性菌株
 保持)
 主任 技 師 遠 山 祐 三

病 理 學 部 (病理解剖學、實驗病理學、
 發疹「チフス」、恙蟲病、癌)
 主任 教 授 三 田 村 篤 志 郎

寄 生 蟲 學 原 蟲 學 部
 主任 教 授 宮 川 米 次

獸 疫 學 部 (痘瘡、痘苗、狂犬病、脾
 脫疽)
 主任 技 師 城 井 尙 義

衛 生 動 物 學 部 (傳染病媒介動物學、昆蟲
 其他病害動物及其撲滅法)
 主任 技 師 山 田 信 一 郎

化 學 部 (生理化學、病理化學、治
 療化學、細菌化學、血清化學、抗毒素)
 主任 教 授 河 本 禎 助

大 動 物 免 疫 部
 主任 技 師 城 井 尙 義

「ワクチン」製造及包裝部
 主任 囑 託 西 澤 行 藏

毒 素 精 製 作 業 部
 主任 助 教 授 細 谷 省 吾

檢 査 部 (代用消毒藥檢定、微毒血
 清診斷、血清、血液、病的組織、喀痰、糞尿、
 膿其他臨牀診斷學的檢査、消毒藥其他水質
 空氣等衛生檢査、消毒器械檢査、細菌學的

製劑檢査)
 主任 助教授 小 島 三 郎

診 療 部 (附屬醫院)
 主任(院長)教授 宮 川 米 次

培 養 基 製 造 部
 主任 助教授 小 島 三 郎

血 清 檢 定 部
 主任 教 授 佐 藤 秀 三

講 習
 主任 教 授 佐 藤 秀 三

寫 真 室
 監督 技 師 城 井 尙 義

記 念 室
 監督 技 師 山 田 信 一 郎

冷 藏 庫
 (地階) 監督 助教授 細 谷 省 吾
 (一階) „ 技 師 城 井 尙 義
 (二階) „ 助教授 小 島 三 郎
 (三階) „ 技 師 遠 山 祐 三

中 動 物 室
 主任 技 師 城 井 尙 義

小 動 物 室
 主任 技 師 城 井 尙 義

圖 書 及 編 纂 出 版 部
 主任 教 授 佐 藤 秀 三

事 務 部
 主任 事務官 檜 山 兼 次 郎
 以 上

鬼怒川、川治温泉遠足

春秋會主催ノ秋季遠足トシテ鬼怒川、川治
 湯泉行キガ去ル11月3日舉行サレタガ參加者
 總數 205名。當日ハ明治節ノ快晴ニ惠マレ心行
 ク計リ紅葉ヲ樂シム事ガ出來タ。昨年ノ秋始
 メテ春秋會ノ遠足ガ企テラレ本年ハ第2回目
 テアルガ毎回幹事ノ努力ト天候ニ惠マレタタ
 メ非常ナル成功ヲオサメル事ガ出來テ、イヨ
 イヨ從業員ノ慰安ニハ必要カクベカラザル年
 中行事ノ一ニナラウトシテ居ルノハ何ヨリテ
 アル、ナホ同日ノ 道程ヲ記スト次ノ様デアル、

午前6時40分東武電車淺草驛出發。同9時15分鬼怒川溫泉著。直チニ山水閣ニ入り休憩。辨當ノ分配ガアツテ。午後4時半迄自由行動ガ許サレ。ソノ間大部分ノ人ハ川治溫泉ニ遊ビ。午後4時半鬼怒川驛ニ再ビ集合シテ歸路ニツキ午後7時半淺草驛著。同所ニ於テ目出度ク解散シタ。

學友會へ寄附

一金百貳拾九圓參拾貳錢也 市橋 敏雄君

昭和九年十月中職員異動調

昭和9年11月6日 傳染病研究所

發令 月日	異動事項	官職	氏名
10. 1	第1細菌血清學部主任ヲ命ズ	教授	高木 逸磨
„	第5細菌血清學部主任ヲ命ズ	助教授	矢追 秀武
„	培養基製造室主任ヲ命ズ	助教授	小島 三郎
„	血清檢定室兼勤ヲ命ズ	技手	武田 德晴
„	同	囑託	高橋 義夫
„	血清檢定室物品取扱主任ヲ命ズ	技手	武田 德晴
„	陸叙高等官四等	助教授	細谷 省吾
„	昭和9年6月17日付願研究生入學ノ件許可		小島 國康
„	昭和9年6月18日付願研究生入學ノ件許可ス		田中 計德
„	昭和9年6月20日付願研究生入學ノ件許可ス		瀧澤 道夫
„	昭和9年7月11日付願研究生入學ノ件許可ス		小田 通男
„	昭和9年3月17日付願研究生入學ノ件許可ス		續木 正夫

10. 1	昭和9年5月17日付願研究生入學ノ件許可ス		野上 隆
„	昭和9年6月16日付願研究生入學ノ件許可ス		井田 清
10. 3	昭和9年10月3日付願研究生退學ノ件許可ス		小澤 英作
„ 4	滿洲國ニ於ケル地方病調査ヲ囑託ス		阿部 俊男
10. 5	大阪大分ノ一府一縣下へ出張ヲ命ズ	事務官	檜山兼次郎
10. 8	香川縣下へ出張ヲ命ズ	囑託	島崎 正雄
„	東京埼玉ノ一府一縣下へ出張ヲ命ズ	技手	山岸 精實
„	同	技手	宮本 正治
10. 9	昭和9年10月9日付願研究生退學ノ件許可ス		本田 源吉
10. 12	血清檢定室兼勤ヲ免ス	技手	天神 智
10. 13	栃木縣下へ出張ヲ命ズ	技手	山岸 精實
10. 15	傳染病研究所業務ヲ囑託ス(診療部)		本田 源吉
10. 15	叙正六位		細谷 省吾
10. 23	神奈川縣下へ出張ヲ命ズ	技手	山岸 精實
„	同	技手	宮本 正治
10. 24	北海道へ出張ヲ命ズ	囑託	鐵本 總吾
10. 25	臺灣へ出張ヲ命ズ	助教授	細谷 省吾
10. 26	昭和9年10月26日付願研究生退學ノ件許可ス		内田 顯義
10. 31	岡山縣下へ出張ヲ命ズ	教授	高木 逸磨
„	同	囑託	入田 貞義

スル流行性ノ疾患ガ如何ニシテ發生シタカニ就イテハ種々ト假定ガ立テラレルデアラウガ。著者ハ恐ラクハ Rockefeller 研究所内ニソノ根源ガアツタノデアラウト言ツテ居ルガ。

ソノ想定ニ對シテノ説明ハ掲ゲラレテ居ナイ。恐ラクハ他ノ研究者ニ依ツテノ流行學的考察ノ際ニ述ベラレルノデアラウト思ハレル。

(渡邊)

雜 報

學術集談會開催

非常時日本ノ情勢ニ鑑ミ、毒瓦斯ニ關スル我々ノ醫學常識ヲ高ムルタメ、今回陸軍當局者ニ依頼シ、軍醫學校教官一等軍醫正吉植精逸氏ヲ煩シ毒瓦斯ノ豫防ニ關スル特別講演會ヲ開催スルコトニナリ。去ル11月15日ノ學術集談會ヲ割イテ之ニ當テルコトニナツタ。當日ハ午後1時所内講堂ニ於テ開會シタガ聽衆者多數ヲ滿員盛況デアツタ。同講演ハ大戰當時使用セラレタ毒瓦斯ニ就テ、歴史的ノ説明カラ始リ、諸種毒瓦斯ノ化學的性狀、中毒ノ狀態、コレガ治療及ビ豫防ノ方法ニ及ビ、更ニ毒瓦斯及ビ豫防「マスク」等ニ就テ供覧ガアリ、約3時間ニワタル興味深イ講演デアツタ。

新刊抄録ニ就テ

本誌ノ新刊抄録欄ハ從來形態學の方面ノ業績ニ關スル紹介記事ガ少カツタガ、本號ヨリ新ニ渡邊君ガ同方面ヲ擔任毎號執筆セラレコトニナツタノデ、本欄ノ記事モ細菌、血清、生化學、病理ノ諸方面ニ返リ稍々完備ノ形式ヲトルコトニナツタ。

新著圖書及ビ追加雜誌

本年4月ヨリ11月迄ニ到著シタ圖書及ビ新ニ購入スルコトニナツタ雜誌ハ以下ノ如クデアアル。

新著圖書及雜誌追加通知

1) Beilstein: Handbuch der Organischen Chemie, Bd. 16—19, 1933—1934.

2) Beilstein: Handbuch der Organischen Chemie. Ergänzungs band 13/14, 1933. — 15/16, 1934.

3) Hirschfeld, H. und Hittmair, A.: Handbuch der allgemeinen Hämatologie, Bd. II, 1.

4) Oppenheimer: Handbuch der Biochemie des Menschen und der Tiere. II. Aufl. Ergswerk, Erster Bd. A, 1933. — B, 1933. — Zweiter Bd. 1934.

5) Abderhalden: Handbuch der Biologischen Arbeitsmethoden. Lf. 418—426.

6) Bergey: Bergey's Manual of Determinative Bacteriology, Fourth Edition, Bd. 1, 1934.

7) Spielmeyer, W.: Histopathologie des Nervensystems. Bd, I, 1922.

8) Heffter: Handbuch d. Exper. Pharmakologie. Bd. I. — Bd. II, 1. 2. — Bd. III, 1. 2.

追加雜誌

1) Journal of Biochemistry. Bd. 1—20, 1922—1934. (以下繼續)

2) Zeitschrift f. Parasitenkunde. Bd. 2—7, 1930—1934. (以下繼續)

3) Naturwissenschaften. Jahrgang 22, Ht. 1—40, 1934. (以下繼續)

4) Annales de Physiologie et de Physico-chemie Biologique. Tome 10, No. 1—3, 1934. (以下繼續)

學友會へ寄附

金 6 圓 30 錢也 池田 武夫君
 金 3 圓 25 錢也 守山 英雄君
 金 7 圓 31 錢也 {武田 德晴君
 須賀井 忠男君
 金 63 圓 85 錢也 谷口 隴二君

昭和九年十一月中職員異動調

昭和9年11月4日 傳染病研究所

發令 月日	異動事項	官職	氏 名
11. 1	第七細菌血清學部兼第一細菌血清學部勤務ヲ命ス	技 手	加 地 信
..	第八細菌血清學部主任ヲ免シ 第三細菌血清學部主任ヲ命ス	助教授	細 谷 省吾
..	第八細菌血清學部勤務ヲ免シ 第三細菌血清學部勤務ヲ命ス	技 手	川 島 四郎
..	同	同	進 藤 宙二
..	同	囑 託	大 村 重光
..	同	同	桑 島 謙夫
..	第三細菌血清學部主任ヲ免シ 第四細菌血清學部主任ヲ命ス	教 授	田 宮 猛雄
..	第三細菌血清學部勤務ヲ免シ 第四細菌血清學部勤務ヲ命ス	技 手	小 栗 一好
..	同	同	岡 本 啓
..	同	同	清 水 文彦
..	同	囑 託	手 塚 悅郎
..	同	囑 託	柳 澤 德義
..	第六細菌血清學部勤務ヲ免シ 検査部勤務ヲ命ス	同	田 中 芳雄
..	第四細菌血清學部主任ヲ免シ 第八細菌血清學部主任ヲ命ス	教 授	高 木 逸磨
..	第四細菌血清學部勤務ヲ免シ 第八細菌血清學部勤務ヲ命ス		

11. 1	技 手	工藤正四郎
..	同	川喜田愛郎
..	同	囑 託 福島 伴次
..	寄生蟲學原蟲學部主任ヲ命ス	教 授 宮川 米次
..	寄生蟲學原蟲學部勤務ヲ命ス	囑 託 石井信太郎
..	獸疫學部主任ヲ命ス	技 師 城井 尙義
..	獸疫學部勤務ヲ命ス	同
..	同	技 手 安藤啓三郎
..	同	同 佐藤 久藏
..	同	囑 託 池田 武夫
..	同	同 海老原鐵磨
..	毒素精製作業部主任ヲ命ス	助教授 細谷 省吾
..	毒素精製作業部兼勤ヲ命ス	技 手 川島 四郎
..	同	同 進藤 宙二
..	小動物室主任ヲ命ス	技 師 城井 尙義
..	第八細菌血清學部物品取扱主任ヲ免シ 第三細菌血清學部物品取扱主任ヲ命ス	技 手 川島 四郎
..	第三細菌血清學部物品取扱主任ヲ免シ 第四細菌血清學部物品取扱主任ヲ命ス	同 小栗 一好
..	第六細菌血清學部物品取扱主任ヲ免ス	囑 託 田中 芳雄
..	第六細菌血清學部物品取扱主任ヲ命ス	同 金澤 謙一
..	第四細菌血清學部物品取扱主任ヲ免シ 第八細菌血清學部物品取扱主任ヲ命ス	技 手 工藤正四郎
..	病理學部物品取扱主任ヲ命ス	同 天神 智
..	寄生蟲學原蟲學部物品取扱主	

- | | | | | | |
|---------------------|-----|--------|-----------------------|---------------|-------|
| 任ヲ命ス | 囑託 | 石井信太郎 | 技手 | 山岸 | 精實 |
| 11. 1 獸疫學部物品取扱主任ヲ命ス | | | 同 | 宮本 | 正治 |
| | 技手 | 佐藤 久藏 | .. | 第五細菌血清學部勤務ヲ免シ | |
| .. 毒素精製作業部物品取扱主任 | | | | 第六細菌血清學部勤務ヲ命ス | |
| ヲ命ス | 同 | 川島 四郎 | | 囑託 | 江島 眞平 |
| .. 第七細菌血清學部物品取扱主 | | | 11. 13 歸 朝 | 技手 | 赤塚 京治 |
| 任ヲ免ス | 技手 | 柳澤 謙 | 11. 18 静岡愛知及廣島ノ三縣下へ出 | | |
| .. 記念室兼勤ヲ命ス | | | 張ヲ命ス | 囑託 | 菊池 常雄 |
| | 囑託 | 淺田 順一 | 11. 21 千葉縣下へ出張ヲ命ス | | |
| .. 記念室物品取扱主任ヲ命ス | | | | 囑託 | 島崎 正雄 |
| | 同 | 淺田 順一 | 11. 24 栃木縣下へ出張ヲ命ス | | |
| .. 昭和9年7月27日付願研究生 | | | | 同 | 中村二三郎 |
| 入學ノ件許可ス | | 三田村銳志郎 | .. 昭和9年11月24日付願研究 | | |
| 11. 2 静岡縣下へ出張ヲ命ス | | | 生退學ノ件許可ス | | 田中采之助 |
| | 教授 | 宮川 米次 | 11. 26 昭和9年11月26日付願研究 | | |
| .. 臺灣へ出張ヲ命ス | | | 生退學ノ件許可ス | | 宇賀 武俊 |
| | 助教授 | 矢追 秀武 | 11. 28 静岡、愛知及廣島ノ三縣下出 | | |
| 11. 5 青森、岩手ノ二縣下へ出張ヲ | | | 張期間ノ延長ヲ命ス | | |
| 命ス | 囑託 | 中村二三郎 | | 囑託 | 菊池 常雄 |
| .. 石川縣下へ出張ヲ命ス | | | 11. 30 依願免本官 | 技手 | 赤塚 京治 |
| | 同 | 島崎 正雄 | .. 傳染病研究所業務ヲ囑託ス | | |
| 11. 8 埼玉縣下へ出張ヲ命ス | | | (第一細菌血清學部) | | 赤塚 京治 |